

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（保護者）94%	生徒指導課 7月のアンケート結果が95%であったので概ね数値は維持されている。今後、さらにしっかりと挨拶できる生徒が増えてくれるよう、日々の学校生活の中で気持ちの良い挨拶が交わせるような雰囲気作りを心掛けていく。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）95%	生徒指導課 7月のアンケート結果が94%であったので概ね数値は維持されている。頭髪に関する規定緩和を徐々にすすめてきたが、「何でも良くなった」訳ではないので、規定の範囲内での髪型を意識するように、けじめを持たせていきたい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均値と比べて、変化率が A 10%以上の減少である。 B 10%未満の減少である。 C 10%未満の増加である。 D 10%以上の増加である。	D 12月時点で過去5年間の平均値より27%（201件）の増加 *H30～R4の平均	生徒指導課 コロナ過で増加した遅刻数はここ2年間減少傾向であったが、残念ながら今年は大幅増の数値となっている。今一度日々の指導の中で時間を守る指導を徹底していく必要がある。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	積極的に校内清掃や教室内の整理整頓に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）94%	保健環境課 7月アンケート89%から94%と生徒の環境美化に対する意識は高まっている。95%以上にできるよう、より一層、生徒の校内美化の意識を高めていきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援して、いじめ等を防止し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 80%である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート（生徒）85%	教育相談課 人間関係に不安を抱いて相談する生徒に対して、じっくり話を聞き、それを解消できるように努めてきた。また、気になる生徒にはこまめに声をかけ、生徒の声を聞くようにしてきたことがこの結果につながったと思われる。今後も、生徒への声かけを行い、生徒の声に耳を傾け、不安なく生活できるように支援していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	遅刻数の大幅な増加が気になる。社会に出ると時間を守ることは社会人として信頼される大事なことである。学校全体で遅刻指導に取り組んで欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	基本的生活習慣（時間を守る、頭髪服装等）の確立は社会に出るうえで大切なことであるため、1年次からしっかりと指導していきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（わかる授業の実践、GIGA スクール構想の推進、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 12月による授業評価で肯定的評価 94.6%	教務課 肯定的評価が高まった要因として、教員が生徒の実態に合わせて興味関心を喚起させる授業改善に取り組んだことや、一人一台端末の活用が定着してきたことが考えられる。端末の使用により生徒の活動が能動的になり、授業への参加意識の高まる中、さらに理解の促進を図ることが課題である。
	② GIGAスクール構想の推進を図る。	1日6時間（火曜のみ7時間）の授業、ホームルーム等での活動にクロムブックを2回以上活用している。 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	D 12月の教育活動に関するアンケート（生徒） 58%	教務課 中間評価の47%から活用割合が少し増加した。1日1回の割合を含めると93%となり、校内全体として一人一台端末の活用が進んでいる傾向がうかがえる。授業の「振り返り」や自分の考えをまとめたりする場面での活用が増えてきている。今後さらに効果的な活用方法の研究を進めていきたい。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	B スポーツテストの結果 76%	体育管理課 前年度61%と比較し、多くの生徒が自己記録を超えた。コロナ渦での運動制限が軽減され、通常に近い形での授業、部活動が行えるようになったことが要因であると考え。運動機会の少ない総合学科女子の体力低下がみられる。今後は体育の授業を中心に体力向上に努めていきたい。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	A 進路内定・決定率 100%	進路指導課 全員の進路が決定するまで、例年以上に時間がかかった。就職に関しては昨年よりも求人数は多かったが、進学でも就職でも基礎学力やコミュニケーション能力について力不足の生徒は厳しい結果となる傾向があった。ただ公務員に関しては、専門学校との連携が功を奏し、例年に比べても合格者が多かった。早期の段階から進路ガイダンス等で進路意識、基礎学力を高めておく必要性を感じた。
学校関係者評価委員会の評価	クロムブックをどのように活用しているのか。個々の生徒に応じた学習内容を提供し、学習意欲を高めて欲しい。職場体験で生徒を受け入れた。仕事ぶりも非常に良かった。目的意識がある生徒はしっかりしている。学校全体で取り組み進路実現に結び付けて欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	動画の視聴やクロムブック上での記録など、活用の仕方を工夫することで興味関心が高まり主体的に授業に取り組めた生徒が増えた。今後も工夫していきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な競技力向上と生徒会活動の活性化。（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングや実技指導を行う。	全国大会に出場した部活動が A 8部以上である。 B 6部以上である。 C 5部である。 D 5部未満である。	B 全国高校総体等に6部出場（男女柔道、ウエイトリフティング、ボート、射撃、なぎなた部）	体育管理課 昨年度の5部から今年度は6部がインターハイ等の全国大会への出場を決め昨年度より1部ではあるが増加した。今後も中学校部活動から高校部活動への環境の変化に順応できるよう、個々に応じたきめ細かな指導に心がける。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（生徒） 80%	体育管理課 7月アンケートよりも3%減少。感染症の影響は少なかったが、7月以降も大雨や熱中症予防のため、予定通りの活動ができない場面があった。各部練習体制の見直し等により、想定外のことを念頭に計画的に実行できるよう創意工夫し、効率の良い指導に心がけ、競技力の向上を継続していく必要がある。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート（生徒） 79%	生徒会課 後期は文化祭・体育祭など生徒主体の活動が多くあったため、結果的に良い数値になったと思われる。今後は、近隣の他校との交流などを通じて学校生活の充実と学校全体の活性化を図っていきたいと考えている。
	④ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	B 12月の教育活動に関するアンケート（生徒） 55%	生徒会課 9月に「あいさつ運動コンテスト」があったにもかかわらず、生徒自身がボランティアをしたという実感を持っていなかったことが、ポイントが上がらなかった要因の1つだと思われる。今後は、能登半島地震関連のボランティア等の社会経験活動を計画していきたいと考えている。
	⑤ 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 12月の教育活動に関するアンケート（保護者） 85%	総務課 満足している割合が85%であった。今後も学校のホームページやメール配信、学校通信また部活動の結果等で、常に新しい情報発信や内容の更新を継続して努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	中学校部活動が地域移行に向かう今、強化の仕方を考える必要があるのではないかと。地元にも有望な選手がたくさんいる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	地元の中学校から情報を得るだけでなく、本校から中学校への出前授業を計画・実施するなど交流できる場面を設定していきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	<p>月80時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が</p> <p>A 0人である。</p> <p>B (月数×1人)以下である。</p> <p>C (月数×2人)以下である。</p> <p>D Cを上回る。</p>	<p>D</p> <p>12月までの9ヶ月で時間外勤務80時間を超える延べ人数が</p> <p>22人</p>	<p>R5中間評価：11人</p> <p>R4最終評価：24人</p> <p>R4中間評価：16人</p> <p>徐々に減少していて、校務の効率化が教職員全体に浸透してきていることが確認できる。80時間を超える勤務は、部活動における県外大会への参加等から、削減について難しい面もあるが、今後もワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいきたい。</p>
		<p>(全教員)タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が</p> <p>A 80%以上である。</p> <p>B 70%以上である。</p> <p>C 60%以上である。</p> <p>D 60%未満である。</p>	<p>B</p> <p>12月の教育活動に関するアンケート(教職員) 77%</p>	<p>R5中間評価：77%</p> <p>R4最終評価：91%</p> <p>R4中間評価：76%</p> <p>多くの職員が仕事の効率化を意識することが日常化してきていると考えられる。しかし、一部の部活動顧問においては強化育成が最優先になっていることもあるので、意識的に働きかける必要がある。今後もICTの活用や各課、学年での業務の割り振りなどを工夫して効率化に努めていきたい。今後も働き方の意識の醸成と環境の整備に取り組んでいきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>全国大会出場の部活動が6部あり、熱意ある指導の成果である。それと並行して働き方改革を考慮しワークライフバランスの実現に取り組んで欲しい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>部活動指導が強化優先になり多くの時間を費やすことがないよう意識的に声をかけていく。効率的な部活動指導、ICTの効果的な活用などにより心身が整った状態で勤務できるよう取り組んでいく。</p>			